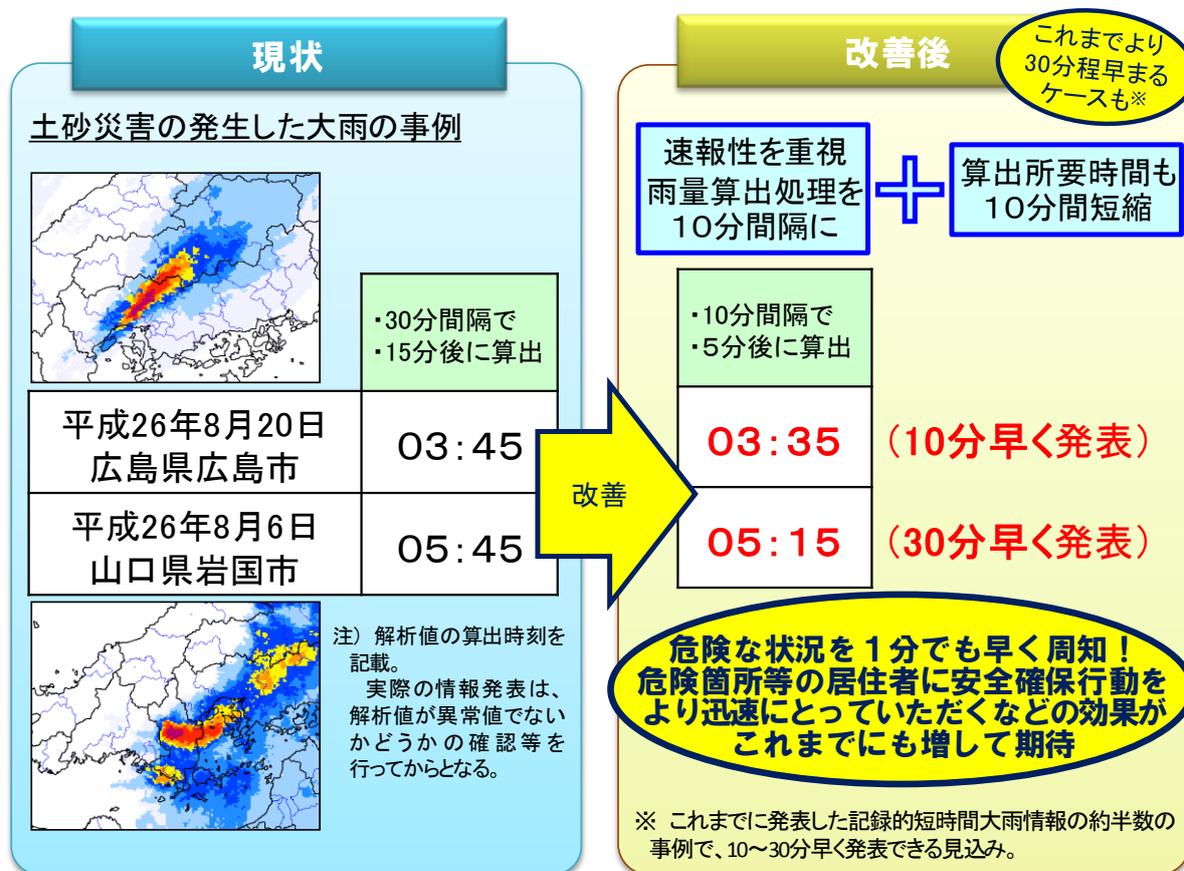


記録的短時間大雨情報のより迅速な発表

交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方（平成27年7月）においては、実際に大雨となった場合に、安全確保行動のトリガーとなる実況情報をより迅速に発表していく必要性が課題として挙げられました。

これを受けて、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨となっていることをお知らせする「記録的短時間大雨情報」を、これまでより最大で30分早く発表します。



記録的短時間大雨情報は、アメダス等の雨量計データのほか、雨量計データと気象レーダーを組み合わせた解析雨量を用いて発表しています。

これまで30分間隔で行っていた解析雨量の算出処理を、速報性を重視して10分間隔とし、さらに所要時間を10分間短縮することによって、記録的短時間大雨情報の発表の迅速化を図ります。

記録的な短時間の大雨発生から記録的短時間大雨情報発表までの所要時間

	現行	迅速化後
雨量計の観測による発表	約 10 分～20 分	現行と同じ
解析雨量による発表	約 20 分～50 分	約 10 分～20 分

記録的短時間大雨情報が発表されたときは、当該地域で、災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

内閣府がとりまとめた「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」においては、市区町村においては、記録的短時間大雨情報を避難勧告等の発令の判断材料とすることが盛り込まれています。地元自治体の発表する避難に関する情報に留意し、早めの避難を心がけてください。

土砂災害や浸水害の危険のある場所等にお住まいの方で、あらかじめ決めておいた避難場所まで移動することが危険だと判断されるような場合は、近隣のより安全な場所や建物へ移動したり、それさえ危険な場合は、緊急に2階以上の少しでも安全な場所へ退避（垂直避難）したりするなど、安全確保を図ってください。

(参考) 記録的短時間大雨情報について

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kirokuame.html>